

こぶし通信

Vol.60
2024.8



社会福祉法人こぶしの会

〒630-8424 奈良市古市町529-4

電話 0742-63-6765 FAX 0742-63-6766

e-mail/kokkara@kokkara.jp <http://kokkara.jp/>

発行責任者/坂下 伸一

Column

「人間らしさ」ということにこだわって

社会福祉法人こぶしの会 理事長 坂下 伸一

なぜ働いていると本がよめなくなるのか

最近、集英社新書から三宅香帆著「なぜ働いていると本がよめなくなるのか」という本がでました。同じような思いをもっていたので、本を買ってしまいました。

その本には

『大好きな俳優の舞台を観に行くこと』『家族と一緒にゆっくり時間を過ごすこと』『行きたい場所へ旅行に行くこと』……自分の人生にとって大切な、文化的な時間というものがあるでしょう。そしてそれらは、決して労働の疲労によって奪われていいものではない。

「仕事をただ長時間こなすマシンではなく、文化的な生活をしてこそ、人間らしい生き方をしていると言えるのではないのでしょうか。現代の労働は、労働以外の時間を犠牲にすることで成立している。」

教員を退職した後は、楽しく本を読むことができていたのですが、最近は、少し仕事が忙しくなって、買った本は「積読」になっています。だからといって、仕事が嫌ではないのですが、私自身、人間らしい生き方ができているのかと考えてしまいます。

いのちのとりで裁判

生活保護の基準が引き下げられたことをめぐって、「引き下げられれば、生活することができない」という切実な訴えからはじまった裁判が「生活保護基準引き下げ違憲訴訟・いのちのとりで裁判」です。

日本では、生活保護を受けることを「恥じる」という思想が根強く残っています。日本国憲法第25条は、日本国民に対して「健康で文化的な最低限の生活を営む権利」を保障しています。ですから、必要な場合に生活保護を申請することは、国民の当然の権利なのです。

それと共に、「健康で文化的な最低限の生活」とは何かという生活の質を考える必要があるように思います。衣食住だけが保障されていれば、それでよいのでしょうか。「旅行に出かけたり、映画を観たり、友達とご飯を食べたり等」は、贅沢なことなのでしょうか。この裁判でも「人間らしい」生活とは何なのかが鋭く問われているように思います。

「人間らしさ」にこだわって

「人間らしさ」ということばは、いろいろに解釈されたり、意味を持ったりすることばです。私自身は、「人間も動物なのだが、他の動物と区別する人間だけが固有にもっている活動」と理解しています。文化・芸術などは、人間らしい活動のさいたるものだと思います。

日本の現実には、子どもたちをみると「勉強して、点を取ることが一番」、大人をみると「怠けず働くことが一番」好きな活動や楽しむ活動は、時間があればするものとなっているように思えてなりません。勉強すること、働くことが良くないと言っているわけではないですが、人間らしい生活はどこにあるのでしょうか。

こっからでは、昨年仲間たちが楽しんで取り組む文化・芸術的活動、身体的活動など、サークル活動が始まっていますが、人間らしいということにこだわり、そうした視点から仲間の活動を創り出し、私たちの活動を見直すことが必要だと思っています。

これからも私自身は、「人間らしい」にこだわり続けていきたいと思っています。



8月3日(木)～8月4日(金)

全障研第58回全国大会 in 奈良

全国障害者問題研究会の全国大会が100年会館、奈良教育大学で行われ、1,100人の参加がありました。加えてオンラインでは200人の参加。ボランティアは260人を超えました。

こぶしの会では、準備事務局に入り、大会グッズの企画販売等の協力を行いました。

また、分科会レポートは、5本を出し、日ごろの実践を発表しました。前日準備の資料の袋詰めでは、「すたあと」の仲間が全員で行きました。他の事業所の利用者もたくさん来られ、交流も深まりました。

さて、来年10月17日(金)～18日(土)は「きょうされん」の全国大会が奈良県コンベンションセンターで行われます。この経験を活かし、大会成功に向けて走り出したいと思います。

前日



前日準備 資料搬入



前日準備 資料の袋詰め



大会いよいよはじまります

1日目



大会初日



大会全体会



一日目の夜の懇親会

2日目



第11分科会「働く」レポート報告①.



第11分科会 「働く」レポート報告②



第13分科会 「暮らしの場での支援」レポート報告



第16分科会 「知的障害のある人たちの生活と発達」レポート報告

給料の取り組み

ここすた NEWS

【ここに】

ここには、給料支給後の最初の金曜日の午後から、自分の欲しいものをみんなと一緒に買いに行くという取り組みを、希望者を募って始めました。初回は給料日と金曜日が重なったので、給料をもらってそれを握りしめながら出かけました。今回は本屋に行くグループとイオンに行って飲食を楽しむグループに分かれました。みんな大満足で、今から来月の取り組みが楽しみです！

(文責：新谷 和博)

【すたあと】

梅雨に入り、徒歩ですたあとまで来る仲間のズボンが、びしょぬれ…となることがあります。何度か「レインウェアを買って雨対策を」と提案していましたが、なかなか自分では買いに行くことができずにいました。そこで、それぞれが自分に合った用途とデザイン、サイズを選べるよう、みんなでお店に行って探し、買いに行きました。リュックを背負ったままでも着られるレインジャケットを見つけたりでき、それぞれに合ったものを選び、雨降りの日でもおしゃれに通えるようになりました。

(文責：島 耕治)



「みんなで学ぶ。日常につなげる。」

ふゆーちゃー NEWS

6月15日（土）に令和6年度の学習交流会を開きました。

19名が参加し午後からの半日でしたが有意義な時間を持つことができました。

今回の学習内容として、「家族の方の話をうかがう」「みんなで話し合う」ことをテーマとして開催されました。

前半の家族の方の話の中ではホームに入居されるまでのなかまの人生、家族が寄り添ってきた歴史など今までのことをじっくりと伺う良い機会になりました。今のなかまの姿しか知らない私たちにとって、歩んでこられた数十年の家族の絆を改めて知ることができました。後半は各ホームに分かれてのグループワークでした。

日々の支援でなかまと過ごす中で印象に残っているエピソードや、どんな風に支えていったらいいか悩んでいることなどを話しました。話をした後に「そうそう！」「わかる！」と共感する声も多くあがり、みんな同じような事を感じながら支えているんだなぁと改めて気づきました。ホームに従事しているスタッフが一堂に顔を合わせる機会はなかなかなく、こういった場でスタッフ同士アドバイスをしたり、共感をしたりすることで、みんなで一緒になかまを支えていることを改めて確認し、日々の支援へと活かしていきたいと思っています。 (文責：竹田 悦子)

「障害福祉でもうけて株式上場や」～グループホーム恵不正・虐待事件の衝撃

株式会社恵は、大手住宅メーカーや不動産業界と組み、事業規模を急拡大、わずか4年で、全国12都県、99か所のグループホーム（利用者1710人）、売上高66億円と急成長しました。しかし、職員の内部告発を発端に、悪質な不正行為が発覚、6月26日、厚労省は連座制による指定取り消し処分を行いました。

■「重度障害者むけグループホーム」を売りに。その実態は…。

元職員は「食材費をできるだけ抑えるよう本部から指示され、1人当たり月3,000円、1日3食を100円でまかなわざるを得ず、ガリガリに痩せていく利用者もいた」と証言。食材費の過大徴収は全国で3億円。虚偽の出勤簿でサービス報酬も水増し請求し、愛知県だけで4.1億円にのぼりました。また、会社は多くの報酬を得るために、重度障害者の受け入れを優先。恒常的な人手不足、経験者も足りない中、死亡を含む虐待事例が各地で明るみに出ました。あ

る入居者の家族は、「今度荒れた場合は、催眠スプレーを使っても良いか、と言われた」と。一方、「恵のグループホームはどこにも入れない人の受け皿だった。グループホームが無くなると困る…」とも。自宅を支えることが難しい家族の弱みに付け込んだ悪質ビジネスでした。

■「障害者ビジネス」を放置する国の責任は重大!

「恵」が事業開始した2018年は、国がグループホーム類型「日中サービス支援型」を導入した年と重なります。1ホーム20名まで認められ、報酬単価も高く、営利企業がこぞって参入（初年度41か所が、2023年には891か所に）。支援の質は置き去りにされました。指定基準のあまりの緩さ、乏しい限りの監査体制もここまで被害を拡大させたといえます。愛知や埼玉などで「きょうされん」も関わり、相談窓口がつくられていますが、国・自治体は公的責任を果たし、すべての利用者の行先を確保すべきです。人権が守られる施設制度の改革を強く求めたい。

5月の紙すき班のお楽しみ企画

こっから NEWS

久しぶりに外食にみんなで外食にいかうか相談し始めた頃、「お肉を焼きたい」という意見があり、お店でとなると予算もかかりそうなので、それなら「こっからで焼いて食べよう」と話がまとまりました。

外で食べるのが気持ちの良い季節だったので、テーブルをテラスにセッティング。周りが田んぼでのどかな景色が広がるロケーション、最高のお肉日和です。

まずは焼きそばから焼いていきます。いい香りがしてきたところで、次はお肉です。一人1枚ずつ準備をしました。ペッパーミルで本格的にこしょうをふりかけたりしたのも、楽しい経験でした。

大きなお肉にどう食べようか固まってしまう人や、ダイナミックに手で持っかけてみる人など、食べ方も個性があり、普段の給食とは違うランチタイムとなりました。

(文責：杉原 郁美)



理事長 × 若手職員 鼎談

それぞれ自己紹介を

楠本 大学では東北で学生寮に入り一人暮らしをしていました。特色があって面白いと繊維学部で学び、アルバイトでハンバーガー屋で接客と製造をしていました。

藤井顧問に声をかけてもらい、福祉の分野は無知な状態でしたが、バイトの上司に「向いていると思う」と励ましを受けて挑戦する気持ちでこぶしの会に入りました。

茶端 京都の大学でデザイン学科で学んでいました。課題をこなすので精いっぱい、仕事にするのは難しいかなと思ひ、体力を活かし土木関係で4年ほど働きました。ショベルや解体用のブレーカー、溶接などの資格を持っています。近所に障害のある人が住んでいて、朝早くから親を起し、ドライブに連れて行ったりするのを見て、家族の愛情がスゴいな、そういう人の助けになりたいなと思ってこぶしの会に入りました。

理事長 みなさんと同じように障害のことも知らずに教師に。それから50年、障害関係で勉強させてもらっています。障害のある人の施設にボランティアに行ったり就学を保障されていない子どもの家に訪問に行ったりしていました。登美学園にもかかわったりしました。

茶端 あー。登美学園から藤の木学園に変わるときの解体の工事に、私、行きました（笑）

毎日どんなことを考えて仕事をしてる？

茶端 仲間とのやり取りが楽しい。日々のかかわりで関係ができていくのがうれしいです。

楠本 仲間が気持ちよく仕事ができればと思っています。自分から何かをしたのではなく、仲間が関係性を作ってくれていると思っています。

理事長 仲間たちが元気に仕事をしたり、楽しんだりするために。そして給料を上げるために、働きやすい職場にするためにどうしたらいいかを毎日考えています。

楠本 仲間は新しい人にオープンな感じ。その雰囲気を作ってきたのはすごいな。

茶端 仲間の行動は歩んできた人生の結果。誇りを傷つけないなと思います。

自分たちが言ったことでその人のカラーを塗りつぶしてしまうのはしたくないです。

障害のある人のイメージがどのように変わった？

楠本 障害のある人もぼくらと同じように楽しみたいし、承認欲求もある。ぼくらと同じなんだなと思うようになりました。

茶端 障害のある人のサポートってものすごく大変なことと思っていました。もっと緊張感をもってかわらなければいけないかと思っていたけど、和気あいあいとしていました。

理事長 教師になった時は、この子たちのために頑張らな

いと肩ひじ張っていました。

ある子どもが私がトイレに行ったらついてくる。どこに行ってもついてくる。

子どもは安心を求めていると思いました。どう安心感を共有するかが障害のある人とのかわりの初めなんだなと知っていきました。そして私自身も変わって成長していきました。

好きなこと・趣味

茶端 イラストを描いたり、粘土でプラモデルのパーツを作ったり。

長距離であてもなくドライブするのが好きで、最近福岡まで行って車中泊しました。

楠本 週末は草野球。平日は仕事終わりにジムやバッティングセンターに。ゲームも好きです。

こぶしの会でやってみたいこと

茶端 創作活動を仲間と一緒にやりたいです。粘土をこねて型抜きしたり…パンの作り方と似ているので、仕事につながったりするかな。絵を描く表現活動もしたいです。

楠本 豆腐班の仲間の絵を茶端さんに見てもらいたいな。サークル活動でスポーツをやっている。キャッチボールとかでもっと仲間とのかわりが増えたらいいなと思っています。

理事長よりメッセージ

わたしは、「人間らしさ」という言葉にこだわっています。スポーツとか芸術など高いレベルではなくても、自分が参加することが人間らしく生きるということだと思ふ。本を読んだり映画鑑賞やテレビを見るとか、趣味を膨らませることが人間らしい生活。それは去年からやっているサークル活動につながる。こっからの中で根付いてほしいと思います。普段二人を見ていて一生懸命なので嬉しいなと思っています。こぶしの会の大事なメンバーの一人になってほしいと思います。



こっから旅行 2024



2024年度の旅行コンセプトは「仲間全員で一つの事を体験する」

今年は日が長い初夏の時期に試みました。

時期的に雨の多い季節でもあり様々な注意点も念頭に置きながらも、6月28日（金）天気は土砂降り。近江八幡/水茎焼き体験を決行。彼らのパワーはこの土砂降りに負けまいとキラキラ輝いていました。

まずは、一番大切なお土産の注文に近江八幡にあるクラブハリエへ。その次はお楽しみのお昼ご飯「すき焼き」。それぞれ思い々の食べ方を楽しんだ後は、いざ焼き物体験へ。

42名がお皿・お椀と思わしき作品を笑顔でそれぞれの思

いを込め作成。

土砂降りの道中、色々なトラブルがありながらも、目の前の些末なことには心捉われず、いつもその先の楽しいことに思いを馳せ、仲間同士お互いを思いやる気持ちに支援者側が改めて気付きをもらえる旅行。彼らの思いが詰まった作品は9月に手元に届く予定です。水茎焼きの作品を見るたびに当時のキラキラした思いが蘇る2024年のこっから旅行でした。

（文責：城本 知美）



Topix

1月



【ここに・すたあと】石切神社へ

【ここに・すたあと】
不退寺に初詣



3月



【こっから】
パン製菓交流会で
発表



【こっから】
ラッテたかまつさんへお出かけ
(とうふ工房)

5月



【くうぐう】
外食に行きました!

4月



【ここに・すたあと】お花見自治会



【ここに・すたあと】
日本橋ストリートフェスタ



【こっから】
で・あいのある世界展
へお出かけ(活動班)

7月

6月

【ひまわり】
誕生日会



【すまいる】
七夕



【こっから】
たくさんの願いをよ
せて(七夕)



【こっから】
たーくさん梅が実ったよー



【すたあと】
優生保護法最高裁裁判、
原告勝訴をよろこぶ



【こっから・ここすた】
きょうされん滋賀大会プレ企画
に参加



【ひまわり】日常の一コマ

【こっから】
初夏の澄んだ空に風揚げ



全障研(全国障害者問題研究会) の月刊誌「みんなのねがい」 7月号に掲載!

今年度から新しく始まった、全国の仲間の大好きなものを紹介するコーナー「進め! 推し活動」に、すたあとの澤田純さんが掲載されました。

生活は初音ミクを中心に回っているぐらいの「推し」ですが、自分の好きなことを通して、世界が広がり、人とつながっていく喜びが伝わってきます。

同じような趣味を持つ仲間がいまいたら、ぜひ、ご連絡を!



なかまの絵が当選しました!! (プライベート美術館 2023)

去年、奈良県のイベント「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」の一つで、障害のある人のアートを日常のなかで楽しむプロジェクトで、奈良県内各地のカフェや町家、社寺などで作品を展示する「プライベート美術館」企画に応募致しました。

とうふ工房から2名が当選し、生駒市の「長弓寺」と桜井市の「大和信用金庫本店」に飾られていました。

当選したなかまの絵や感想をご紹介します。

■タイトル：虹色のライオン ■作者：菅原 啓

■作品の説明・ポイント：虹色のライオンが色とりどりの世界にむかっています。

■なかまの感想：「カラーライオンスペシャルです。かぜとたいようとかなりたのしいです。」

■タイトル：自然の風景・鳥たち ■作者：佐野 圭司

■作品の説明・ポイント：鳥の表情がとくいです。

■なかまの感想：「僕は初めてお寺にかざってもらってうれしかった。これからがんばってかかつもりです。」

なかまが描いた絵をもっと多くの方に見てもらえる機会を大事にしたいと思います。



2023年度決算公告

社会福祉法人 こぶしの会

貸借対照表 2024年3月31日現在

【資産の部】		【負債の部】		単位:千円
流動資産	177,643	流動負債	21,818	
現金預金	136,451	その他の未払金	390	
未収金	39,739	未払費用	4,766	
貯蔵品・原材料	633	1年以内返済借入金	12,580	
他流動資産	820	他流動負債	10	
固定資産	399,859	賞与引当金	4,072	
基本財産	335,077	固定負債	142,575	
土地	130,075	設備資金借入金	142,575	
建物及び附属設備	205,002			
その他固定資産	64,782			
建物及び附属設備	2,018	負債の部合計	164,393	
構築物	14,093			
機械及び装置	117	【純資産の部】		
車輛運搬具	3,848	基本金	50,840	
器具及び備品	4,854	第1号基本金	50,840	
無形固定資産	2,337	国庫等特別積立金	64,599	
工賃変動積立資産	500	その他の積立金	27,000	
設備等整備積立資産	1,500	次期繰越活動収支差額	270,670	
修繕費積立資産	16,000	次期繰越活動収支差額 (うち当期活動収支差額)	270,670 (13,759)	
借入返済積立資産	9,000	純資産の部合計	413,108	
差入保証金	400	負債及び純資産の部合計	577,502	
他固定資産	10,115			
資産の部合計	577,502			

資金収支計算書

自:2023年4月1日 至:2024年3月31日 単位:千円

	予 算	決 算	差 異
【事業活動による収支】			
就労支援事業収入	19,438	19,597	-159
自立支援給付費収入	219,176	219,036	140
利用者負担金収入	23,520	23,071	449
補足給付費収入	3,000	3,000	0
その他の事業収入	702	608	94
経常経費寄附金収入	800	1,085	-285
受取利息配当金収入	0	2	-2
その他の収入	2,235	3,355	-1,120
事業活動収入計	268,871	269,754	-883
人件費支出	184,444	175,802	8,642
事業費支出	30,932	27,936	2,995
事務費支出	24,424	22,334	2,089
就労支援事業支出	19,930	19,670	260
支払利息支出	455	451	4
その他の支出	530	0	530
事業活動支出計	260,714	246,194	14,520
事業活動資金収支差額	8,157	23,560	-15,403
【施設整備等による収支】			
施設設備等補助金収入	85	83	2
施設整備等寄附金収入	0	28	-28
固定資産売却収入	684	678	6
施設整備等収入計	769	788	-19
設備資金借入金元金償還支出	7,345	7,345	0
固定資産取得支出	3,730	3,441	289
施設整備等支出計	11,075	10,786	289
施設整備等資金収支差額	-10,306	-9,998	-308
【その他の活動による収支】			
その他の活動収入計(7)	8	8	0
その他の活動支出計(8)	6,022	6,022	0
その他の活動資金収支差額	-6,013	-6,013	0
予備費	0	0	0
当期資金収支差額合計	-8,162	7,549	-15,711
前期末支払資金残高	164,375	164,375	0
当期末支払資金残高	156,212	171,923	-15,711

きょうされん国会請願署名・募金のお礼

昨年秋から取り組み始めた「きょうされん国会請願署名・募金運動」。障害のある人の「はたらく・くらす・たのしむ」を支えるための制度拡充を求めて、署名3687筆、募金144,193円のご協力を得て、5/30に、東京の国会議員会館で議員に直接手渡しをしました。

結果、馬淵澄夫、小林茂樹、奥野信亮議員が紹介議員になって国会提出となりました。ご協力、ありがとうございました。

生命保険協会 奈良県協会様よりご寄贈いただきました。

令和6年度 生命保険協会 奈良県協会様の「障がい者支援団体に対する物品寄贈」の抽選会が7月に橿原で行われました。数年来の宿願を果たし今回当選し、かねてより検討していたぐうぐうハウスの外の階段に手すりを付ける工事をするようになりました。雨が降る日や、日が短い夕方には足元が見えにくく上り下りに細心の注意を払っていた階段。これでまたみんながより一層安全に安心して生活することができます。本当にありがとうございました！

表・紙・解・説

■表紙作者

プロフィール

作 者：

南 晃次さん

作品介绍：

奈良公園の鹿をイメージし、自然な感じが出るように工夫して描きました。



社会福祉法人こぶしの会では、事業拡大に伴い私たちと一緒に働いてくれる、**正規職員(生活支援員) 非正規職員(生活支援員・グループホーム職員・送迎スタッフ)**を募集しています。

■生活支援員(パート) 就労継続支援B型事業所 すたあと

支援内容	障害のある人たちとの仕事(清掃、除草、軽作業など)や生活(文化活動、健康維持、身辺自立など)のサポート
勤務時間	週1日～5日 8時45分～17時30分 休憩時間 45分 ※時短・勤務曜日の相談可
休日	基本、土・日・祝(月1回程度休日出勤あり) 有給休暇(法定通り)
給与・手当	時給 1,010円 (経験者 1,060円) 通勤手当 契約時間によって社会保険適用
契約期間	1年ごとの単年度契約
その他	車通勤可(駐車場無料)

地域とのつながりを大切にしながら、事業所内外で様々な仕事を行っています。

応募に当たって資格は特に問いません。福祉や介護の資格をお持ちでない方もぜひご応募ください。

■グループホーム支援員(非正規職員)

支援内容	グループホームでの生活全般(食事、入浴、整容等)の介助や見守り
勤務時間	16時～翌10時までの宿泊をとまなう勤務 ※またはこの時間内で3～5時間で宿泊をとまなわない勤務についても応相談
給与・手当	1,010円(経験者1,060円) 夜勤手当、通勤手当、業務手当 ※契約時間によって社会保険適用
必要資格	不問

求人とは随時おこなっています。未経験の方も安心して働けるようサポートします。詳細・お問い合わせにつきましては、こっから/梅田(0742-63-6765)又は法人本部/藤井(0742-63-6504)までご連絡ください。

編集後記

今号の記事にもレポート報告がありますが、全国障害者問題研究会の第58回全国大会が奈良で開催されました。コロナ禍によってこの4年間はリモートでの開催が続いていましたが、実際に全国から人が集まる大会は実に5年ぶりとのことでした。

私はこぶしの会の坂下理事長と小嶋理事と一緒に「大会を支える会」という立場で県内の障害者団体や行政等の関係機関に大会成功に向けての協力をお願いするという役割で準備に参加させてもらいました。大会実行委員会ではオープニングの会場となる100年会館を1,000名の参加者で埋めようという目標が立てられましたが、会議や研修ではリモートが当たり前になった現在で、全国各地から交通費や宿泊費を使ってまで来てくれるのか。

後援をお願いに行った行政の方も今どき参加費を払ってまでそんなにたくさんの方が集まるんですか?と信じられないといった様子でしたが、結果は目標を大きく超える人たちが奈良

に集まり大成功となりました。こぶしの会からも全事業所から実践レポートを発表。大きな研修会で初めて発表する職員も多く、忙しい仕事の合間に頑張ってまとめた日々の仲間との記録とそれを通しての全国の方との交流はとても貴重な経験になりました。みなさん本当にお疲れさまでした。また大会が終わった翌日には山口県から参加されていた2名の方がこっからに見学に来られました。生活介護の事業所を立ち上げたいということで、こっからを紹介されたとのことでした。見学に訪れた瞬間から仲間のイキイキとした姿や職員さんの笑顔に触れ涙が出るほど感激したとの感想をいただきました。山口県にはきょうされん加盟の事業所が無いということで、「働く」ことやひととのつながりを大切に、仲間が主人公となる施設づくりが実現することを私たちも願っています。(文責:古木 一夫)

こちらも
ご覧ください

<http://kokkara.jp/>

・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。



こっから facebook